

The Emerging Market Weekly

国際為替部
マーケット・エコノミスト
佐々木 貴彦
03-3242-7065
takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周
03-3242-7065
amane.saito@mizuho-bk.co.jp

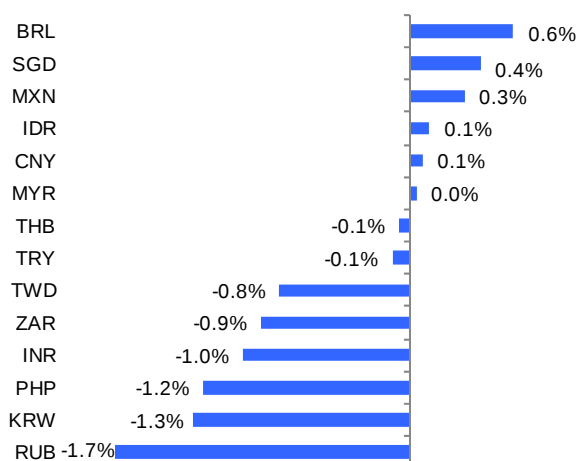
今週のエマージングマーケット

CNY は落ち着きを取り戻すも、新興国通貨の反応はまちまち

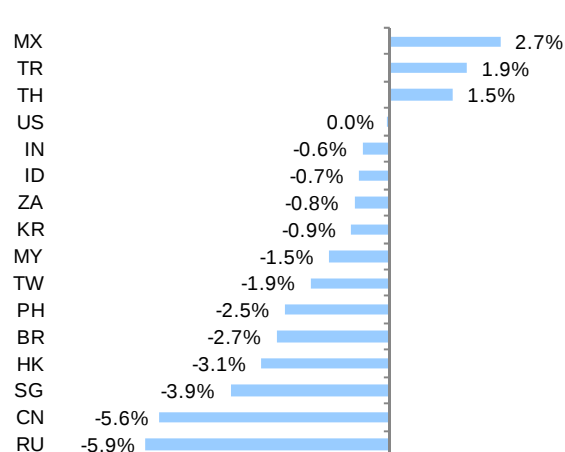
今週の新興国通貨はまちまちの展開。先週末の米 12 月雇用統計は市場予想を上回る良好な結果となったものの、米株を始めとしたリスク資産の下落は止まらず、リスクオフムードが拡がり続けたことで、新興国通貨も軟調な値動きとなった。一方、週初 11 日は中国人民銀行 (PBoC) が CNY 基準値をほぼ横ばいに設定したことなどを背景にリスクオフムードが和らぎ、新興国通貨売りも一服した。12 日、原油価格が 2003 年 12 月以来となる 1 バレル 30 ドルを一時下回ると、リスクオフムードが再び拡がるとともに資源国通貨は値を下げる展開となった。その後、13 日に発表された中国 12 月貿易統計が輸出入ともに市場予想を上回ったことを好感し、一部の新興国通貨は落ち着きを取り戻すも、資源国通貨を中心に軟調な推移を続ける通貨が目立った。

個別通貨でみると、原油価格の下落に連れ RUB (▲1.7%) は売られる展開。また、外国人投資家の株売りなどを背景に PHP (▲1.2%) や INR (▲1.0%) は下落した。ZAR (▲0.9%) は週初のアジア時間にストップを巻き込み一時▲9%を超える下落を記録し、その後は切り返すも、週初の下げ幅分を取り戻すには至らなかった。そのほか、中国経済への懸念が煙り続けたことで、KRW (▲1.3%) や TWD (▲0.8%) は軟化している。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスバ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料) ブルームバーグ

エマージングマーケット短期見通し

中国経済の低迷懸念と原油安が引き続き新興国通貨の重石に

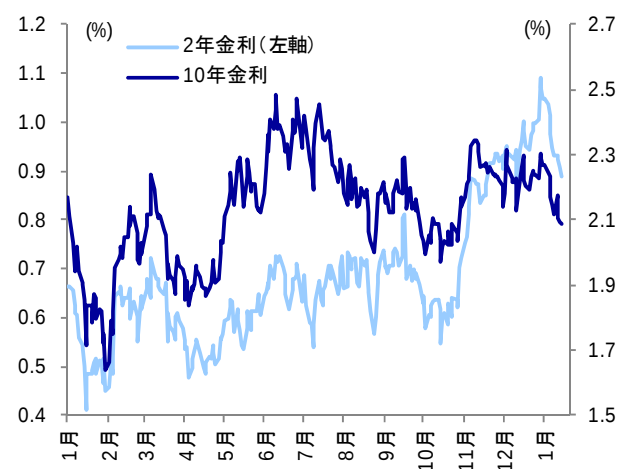
燦り続ける中国経済の低迷懸念と下がり続ける原油価格が新興国通貨を下押し

今週の新興国通貨は、中国経済の低迷懸念と原油続落を受けて軟調な展開となる通貨が目立った。PBoC が 8 日から基準値を横ばいに設定し CNY の安定化を図ったほか、中国 12 月輸出が市場予想を上回ったことが好感され、先週対比では中国経済への低迷懸念は後退しつつある。しかし、上海総合指数が節目となる 3000 を一時下割れるなど、依然として中国の金融市場は不安定な状態にあることから、中国経済の低迷懸念が燦り続け、新興国通貨の重石となった。また、WTI 原油先物が 12 年ぶりに 1 バレル 30 ドルをつけるなど、原油価格の下落は止まらず資源国通貨は先週から更に値を下げる展開となった。

中国経済への懸念は後退が予想されるも、原油価格の低迷は続く見込み

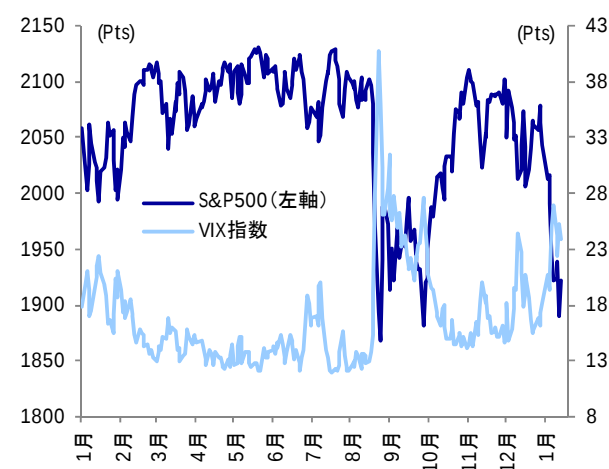
年初から CNY の基準値切り下げとそれに伴う中国経済の低迷懸念及び原油安を背景に、新興国通貨安が進む展開が続いている。中国要因については、PBoC が CNY を安定化させる方向に為替政策を変えたほか、19 日に発表される 10~12 月期 GDP は過去の傾向からほぼ市場予想通りの数値が発表されることが見込まれるため、来週については懸念が後退し、むしろ新興国通貨買い要因になると予想する。一方で、原油については引き続き低迷が続くだろう。中国の原油需要伸び悩みが懸念される中、12 月の OPEC 総会に見られる通り生産調整が進展する様相はなく、過剰供給が続くという情勢が変わる兆しは見られない。米エネルギー情報局が 12 日に今年の WTI 原油先物の想定価格を従来の 50.89 ドルから 35.84 ドルへと引き下げるなど、原油価格の低迷が従来の想定以上に長期化することが予想され始めている。更に、原油安は資源国の経済や財政に悪影響を及ぼし始めており、こうした悪影響への懸念が今後高まることが予想される。結果、リスクオフムードが更に拡がることから、新興国通貨売りが優勢の展開が来週も続くだろう。

図表 1: 米国債利回りの推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ

図表 2: 米株と VIX 指数の推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ

エマージングマーケット:国別の注目材料

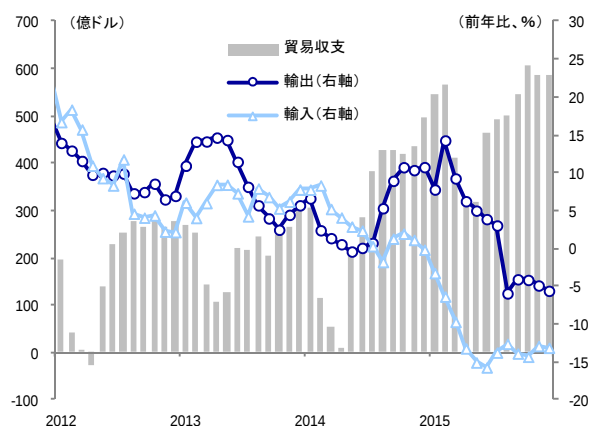
中国: 輸出が市場予想及び前月実績を上回る

CNY 建てで見た12月輸出は、6月以来の前年比プラスの伸びとなるなど、12月貿易統計では明るい材料が見られた

13日に発表された中国12月貿易統計では、輸出(ドル建て)が前年比▲1.4%(市場予想:同▲8.0%、11月:同▲6.8%)と市場予想及び前月実績を上回る結果となった。また、輸入(ドル建て)も前年比▲7.6%(市場予想:同▲11.0%、11月:同▲8.7%)と市場予想及び前月実績よりもマイナス幅は小幅に留まった。輸出を見ると、3か月移動平均で見た基調は横ばいに留まっているものの、CNY建てで見た12月輸出は前年比+2.3%と昨年6月以来となるプラスの伸びを記録した。昨年8月に行われたCNYの実質的な切り下げ効果が、徐々に顕在化している可能性が高まっており、今後の輸出回復に期待が持てる内容となった。但し、今後発表される1月及び2月の貿易統計は旧正月の影響で毎年大きくぶれる傾向にあり、単月ではなく1月・2月を通して見る必要がある。そのため、中国の輸出が底を打ったと判断するのは、早くとも2月の貿易統計が発表される3月になると考えている。

中国人民銀行(PBoC)は、年初から7日にかけて基準値を大幅にCNY安に設定したものの、8日以降はほぼ横ばいに設定している。昨年8月と同様、切り下げに伴う金融市場の混乱を収束させることが狙いと考えられる。また、CNYの名目実効為替レート(NEER)は昨年初来の低水準で安定推移していることから、基準値を更に切り下げる必要性は低いと判断している模様だ。但し、資本の移動に係る規制を緩和し、市場の需給をより尊重するとPBoCと政府が発表している以上、資本流出圧力の高まりに沿ってCNY安を徐々に容認していくという姿勢に変更はないと見られる。貿易統計が回復の兆しを強め、CNY安の根源となっている中国経済の低迷懸念が払拭され、資本流出圧力が緩和しない限りCNY安基調は変わらないだろう。よって、1~3月期については引き続きCNY売り優勢の展開を予想している。

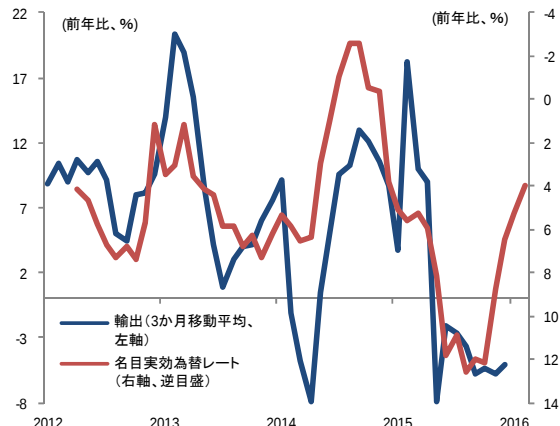
図表3: 中国 貿易収支



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

(注)貿易収支・輸出入ともに3か月移動平均

図表4: 中国 輸出とNEER(名目実効為替レート)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

(注)NEERは輸出に3か月先行させている

台湾：総統選・立法院選挙プレビュー

野党党首の総統選勝利が見込まれるも、経済に与える影響は限定的と見る

台湾において1月16日（土）に正副総統及び立法院選挙が予定されている。総統選では、投票直前の調査において、野党である民主進歩党（以下、民進党）の蔡主席が支持率で43%と与党である中国国民党（以下、国民党）の朱主席（支持率25%）に圧倒的な差をつけており、8年ぶりに総統が交代することが確実視されている（数字は1月5日時点、TVBS集計）。民進党は2014年の地方選挙において得票率を伸ばしているほか、台中市・雲林県といった重要都市の首長選で国民党に勝利しており、今回の立法院選挙でも議席の過半数を獲得することが予想されている。

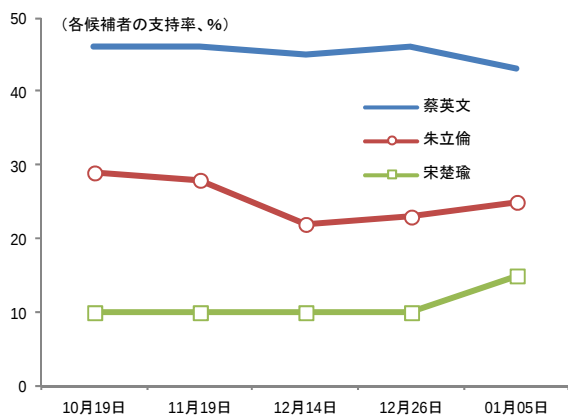
民進党といえば、国民党に比べて台湾独立色が強い政党として知られている。しかし、蔡氏は対中関係について現状維持を明示しており、総統就任後も独立色を前面に出さないと考えられることから、総統交代は対中関係に大きな悪影響を及ぼさないだろう。肝心の経済政策については、独自色が薄く、7～9月期GDPが前年比▲0.6%と2009年7～9月期以来のマイナス成長に陥った台湾経済を急速に回復させるような施策は見られない。中国経済に好転が見られない限り、2四半期連続で前年比マイナスとなった純輸出が回復することは見込み難く、馬・現総統下で成立した省エネ家電補助金や乗用車買換えに対する減税などを背景とした個人消費の持ち直しが台湾経済の急速な悪化を防ぐものの、政権交代を受けても成長率は引き続き低水準に留まるだろう。

トルコ：金融政策決定会合プレビュー

トルコ中銀は、インフレ圧力の高まりに対処するため利上げを実行すると予想

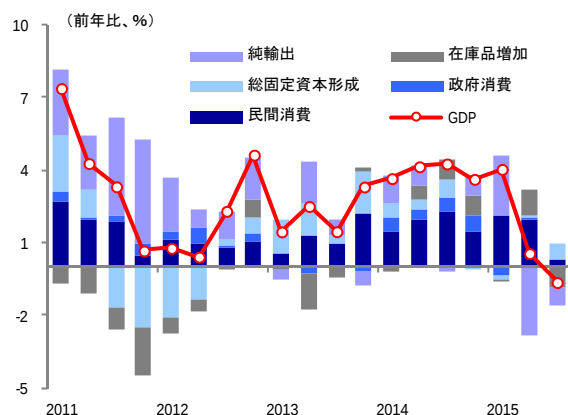
19日（火）に開催されるトルコ中銀（CBRT）の金融政策決定会合では、政策金利である1週間物レポレートに50bp引き上げ、現状の7.5%から8.0%に変更すると予想する。前回会合（12月22日）において、CBRTは政策金利の維持を決定した。声明文にも大きな変化はなく引き続き物価動

図表5： 台湾 総統選 各候補の支持率推移



（資料）TVBS、みずほ銀行

図表6： 台湾 実質 GDP



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

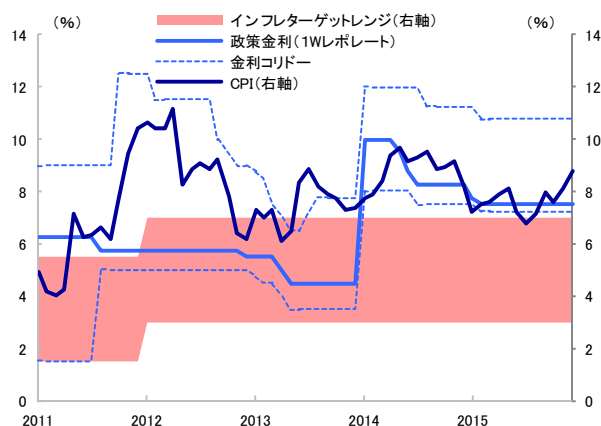
向を見ながら引き締めスタンスを維持するとしている。会合後に発表された12月消費者物価指数（CPI）は前年比+8.81%（11月：同+8.10%）と加速した。また、トルコ政府は11月の総選挙で与党AKP（公正発展党）が掲げていた公約通り最低賃金を30%引き上げたことで、物価上昇圧力は強まると予想される。更にTRY安基調が昨年末より続いており、輸入物価上昇も懸念される状況にある。こうしたインフレ圧力の高まりに対処するため、今回の会合で利上げが実行されると考える。また、前回声明文にて金融政策の簡素化にも触れており、乖離が続いている1週間物レポレートを上げることで同じく政策金利の一つである翌日貸出金利との差を縮小させ、政策金利の収れんを図ることも利上げの理由になるだろう。

ブラジル: 金融政策決定会合プレビュー

インフレ率はブラジル中銀の目標を大きく上回って推移していることから、今回の会合で50bpの利上げを実行すると予想

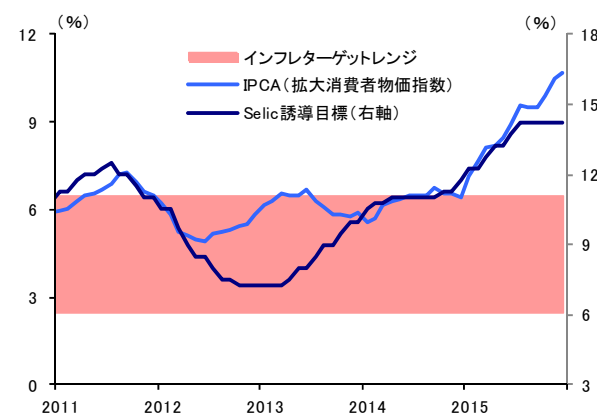
20日（水）に予定されているブラジル中銀（BCB）金融政策決定会合（COPOM）では政策金利（Selic レート）が50bp引き上げられると予想する。前回11月26日のCOPOMでは、賛成6人・反対2人で据え置きが決定された。反対した2人の委員は50bpの利上げを主張したほか、声明文では「政策金利を十分な期間維持することが、インフレ率の目標への収束に必要」との文言が削除されている。前回会合後に発表された2015年11月拡大消費者物価指数（IPCA）は前年比+10.48%と2003年11月以来の2桁の伸びになったほか、今月8日発表の12月IPCAも同+10.79%と上昇幅が拡大している。インフレ率がBCBの目標（+2.5%～+6.5%）に収束するのは少なくとも2017年に入ってからと予想され、20日の会合からBCBは再び利上げサイクルに突入するだろう。

図表 7: トルコ 政策金利と消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 8: ブラジル 政策金利と消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

インド:CPIは4か月連続で加速

食料品価格の急騰を背景に 12月CPIは4か月連続で伸び率が拡大、一方でコアCPIは安定

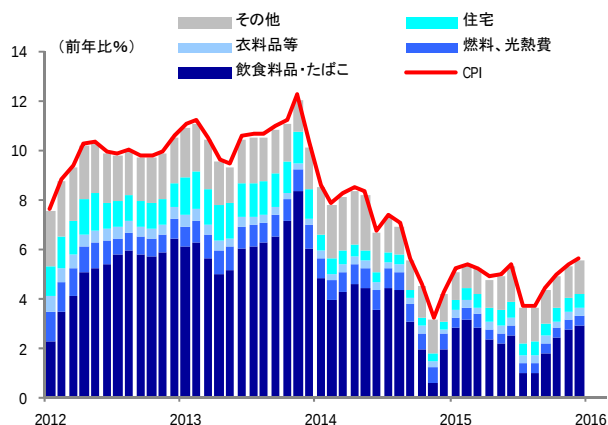
12日に発表されたインド12月CPIは前年比+5.61%(11月:同+5.41%)と4か月連続で伸び率が拡大した。内訳をみると食料品(11月:同+6.1%→12月:同+6.4%)の影響が大きく、特に牛乳(11月:同+5.3%→12月:同+6.6%)や卵・魚・肉(11月:同+11.8%→12月:同+12.6%)の加速が顕著に見られた。一方で、12月コアCPI(食品、燃料、光熱費を除く)は同+5.0%(11月:同+4.91%)と前月比僅かながら加速したものの、8月来の低水準に留まっている。CPIは足許4か月連続で加速しているが、インド準備銀行(RBI)は2016年1月までの物価見通しを前年比+5.8%としており、依然として目標を下回っていることから、今回の結果が金融政策に与える影響は限定的であろう。

韓国:金融政策決定会合レビュー

市場予想通りBOKは金融政策を現状維持

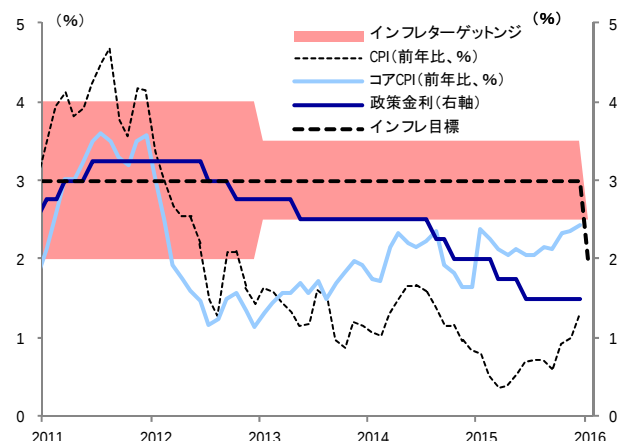
14日に開催された韓国中銀(BOK)の金融政策決定会合では政策金利が市場予想通り1.50%に据え置かれた。据え置きは2015年6月の会合にて25bpの利下げが行われて以来7回連続となった。声明文では、新たに中国の金融市場や原油価格が世界経済に与える影響への懸念が示されたほか、ここもとのKRW下落はCNYの下落や地政学リスクの高まりによることが指摘された。このほか、2016年の成長率見通しが前回(2015年10月)の+3.2%から+3.0%に、インフレ見通しは+1.7%から+1.4%に下方修正された。李BOK総裁は「中国の外国為替市場への不安」、「原油安による株安」などを見通し引き下げの理由としている。今後の韓国経済は、中国低迷により輸出に期待ができないため、内需に依存するところが多い。景気けん引役として期待されている政府支出は、2016年の予算規模が前年からほぼ横ばいとなっているものの、予算は上半期に全体の68%が割り当てられており、年前半の景気は底堅く推移すると見られる。その

図表9: インド 消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表10: 韓国 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

(注)韓国中銀は、2016年よりインフレターゲットレンジを廃止

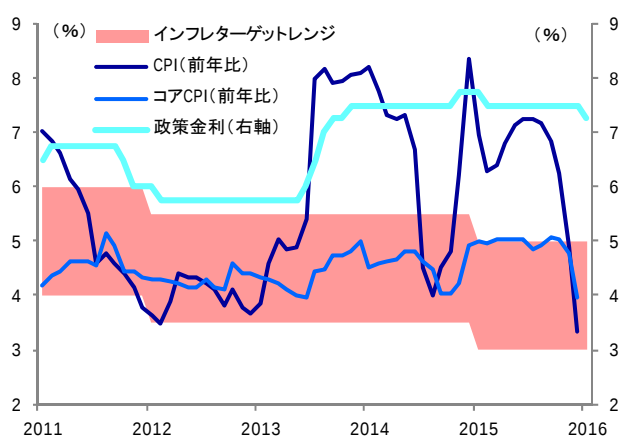
ため、BOK は当面現状の金融政策を維持すると予想するが、景気鈍化のリスクが拡大する年後半にかけて利下げに踏み切る可能性が高いだろう。

インドネシア:金融政策決定会合レビュー

市場予想通りインフレ減速を受けて 25bp の利下げを実施

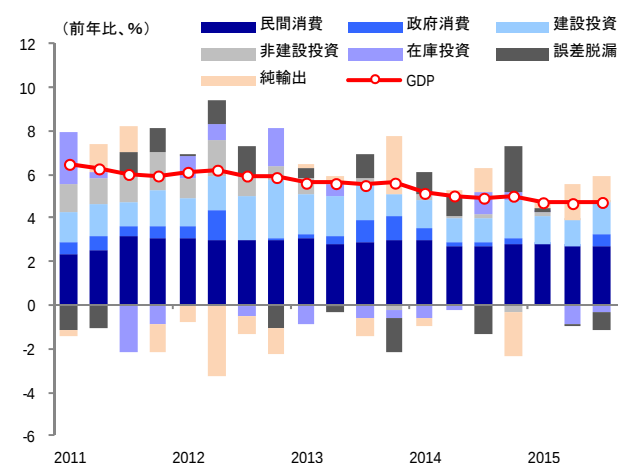
14 日に開催されたインドネシア中銀（BI）の金融政策決定会合では政策金利（BI レート）が市場予想通り 7.50%から 7.25%に引き下げられた。同時に翌日物預金ファシリティー金利は 5.25%、貸出ファシリティー金利は 7.75%にそれぞれ 25bp ずつ引き下げられている。BI の利下げは低迷する国内経済の下支えを目的にしたもので、4 日に発表された 12 月 CPI が前年比+3.35%と 11 月（同+4.89%）から大幅に減速したことや年明け後の IDR 相場の安定が後押しした模様だ。声明文では、「この決定は BI が過去の声明文で緩和余地を指摘してきたことと整合的である」とし、「さらなる利下げは国内外経済についての厳密な調査の後に行われる」としている。また、「2015 年 10～12 月期の経済成長は財政政策や金融緩和にも拘わらず十分に改善しなかった」ことが指摘されており、これが今回の利下げの理由となっている。次回会合は 2 月 17 日（水）～18 日（木）に予定されているが、今回の利下げが国内景気や IDR 相場に与える影響を見極めるために、BI は現状の政策を据え置くと予想している。

図表 11: インドネシア 政策金利と消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 12: インドネシア 実質 GDP



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回事	修正値
エマージングアジア						
1月8日 (金)	台湾	11月 貿易収支	\$3.3B	\$4.17B	\$2.75B	--
9日 (土)	中国	12月 消費者物価指数(前年比)	1.6%	1.6%	1.5%	--
12日 (火)	インド	12月 消費者物価指数(前年比)	5.5%	5.6%	5.4%	--
13日 (水)	中国	12月 貿易収支	\$51.30B	\$60.09B	\$54.10B	--
13日 (水)	中国	12月 輸出(前年比)	-8.0%	-1.4%	-6.8%	--
14日 (木)	韓国	1月 韓国銀行7日間レートの	1.50%	1.50%	1.50%	--
14日 (木)	インドネシア	1月 インドネシア銀行レファレンス・レート	7.25%	7.25%	7.50%	--
14~15日	中国	12月 新規貸出 (人民元)	700.0B	--	708.9B	--
14~15日	中国	12月 マネーサプライM2(前年比)	13.6%	--	13.7%	--
14~19日	インド	12月 貿易収支	-\$9542.0M	--	-\$9781.7M	--
1月15日 (金)	シンガポール	11月 小売売上高(除自動車/前年比)	-1.7%	--	-4.6%	--
15日 (金)	インドネシア	12月 貿易収支	\$100M	--	-\$346M	--
15日 (金)	フィリピン	11月 海外送金(前年比)	3.5%	--	0.2%	--
18日 (月)	シンガポール	12月 非石油地場輸出(前年比)	-4.1%	--	-3.3%	--
19日 (火)	中国	11月 小売売上高(前年比)	11.3%	--	11.2%	--
19日 (火)	中国	11月 鉱工業生産 (前年比)	6.1%	--	6.2%	--
19日 (火)	中国	11月 固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	10.2%	--	10.2%	--
19日 (火)	中国	4Q GDP(前年比)	6.9%	--	6.9%	--
19日 (火)	フィリピン	12月 総合国際収支	--	--	-\$141M	--
20日 (水)	マレーシア	12月 消費者物価指数	--	--	2.6%	--
21日 (木)	マレーシア	1月 BNM翌日物政策金利	--	--	3.3%	--
22日 (金)	台湾	12月 鉱工業生産	-6.8%	--	-4.9%	--
22~27日	タイ	12月 輸出(通関ベース/前年比)	--	--	-7.4%	--
22~27日	タイ	12月 貿易収支(通関ベース)	--	--	\$299M	--
中東欧・アフリカ						
1月11日 (月)	トルコ	11月 経常収支	-2.00B	-2.11B	-0.13B	-0.14B
12~13日	ロシア	11月 消費者物価指数(前年比)	--	12.9%	12.9%	--
1月14日 (木)	南アフリカ	11月 鉱物生産量(前年比)	-3.7%	-0.8%	-4.6%	--
15日 (金)	ロシア	11月 貿易収支	9.9B	--	10.1B	--
15~18日	ロシア	4Q 消費者信頼感指数	--	--	-24.0	--
1月18日 (月)	ロシア	4Q 経常収支	--	--	7509M	--
19日 (火)	トルコ	1月 指標レートの	--	--	7.50%	--
19日 (火)	トルコ	1月 翌日物貸出金利	--	--	10.75%	--
19日 (火)	トルコ	1月 翌日物借入金利	--	--	7.25%	--
20日 (水)	南アフリカ	12月 消費者物価指数(前年比)	--	--	4.8%	--
20日 (水)	南アフリカ	11月 小売売上高(実質値、前年比)	--	--	3.3%	--
21日 (木)	トルコ	1月 消費者信頼感指数	--	--	73.6	--
ラテンアメリカ						
1月8日 (金)	ブラジル	12月 IBGEインフレ率IPCA(前年比)	10.8%	10.7%	10.5%	--
8日 (金)	メキシコ	12月 消費者信頼感指数	93.5	93.0	92.5	--
13日 (火)	ブラジル	11月 広義小売売上高(前月比)	-0.4%	0.5%	-0.1%	--
14日 (水)	メキシコ	10月 総設備投資	2.6%	1.0%	5.7%	--
14~15日	ブラジル	11月 経済活動 (前年比)	-6.7%	--	-6.4%	--
20~21日	ブラジル	1月 SELICレート	14.8%	--	14.3%	--

(注)2016年1月15日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全般的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2015年 1～12月 (実績)	SPOT	2016年 3月	6月	9月	12月	2017年 3月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.1818 ~ 6.4939	6.5900	6.50	6.46	6.40	6.38	6.35
香港ドル	(HKD)	7.7495 ~ 7.7744	7.7826	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	61.295 ~ 67.128	67.295	67.0	67.5	63.0	62.5	61.0
インドネシアルピア	(IDR)	12378 ~ 14828	13907	14500	14000	13700	13500	13300
韓国ウォン	(KRW)	1065.21 ~ 1208.72	1213.30	1200	1180	1160	1160	1140
マレーシアリンギ	(MYR)	3.4960 ~ 4.4812	4.3905	4.40	4.15	4.02	3.92	3.98
フィリピンペソ	(PHP)	43.950 ~ 47.520	47.781	47.5	46.5	45.7	44.9	44.5
シンガポールドル	(SGD)	1.3151 ~ 1.4366	1.4367	1.43	1.39	1.36	1.33	1.34
台湾ドル	(TWD)	30.354 ~ 33.329	33.602	33.50	33.40	33.10	32.80	32.50
タイバーツ	(THB)	32.29 ~ 36.67	36.35	37.0	36.5	36.0	35.5	35.0
ベトナムドン	(VND)	21256 ~ 22547	22438	22800	23300	23300	23400	23400
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	48.1365 ~ 74.3525	76.1047	70.00	68.00	65.00	60.00	60.00
南アフリカランド	(ZAR)	11.2575 ~ 16.0543	16.4641	15.50	15.00	15.50	16.00	16.00
トルコリラ	(TRY)	2.2727 ~ 3.0752	3.0275	3.00	3.20	3.35	3.50	3.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	2.5493 ~ 4.2478	4.0003	4.20	4.28	4.21	4.20	4.20
メキシコペソ	(MXN)	14.4357 ~ 17.4675	17.8624	17.00	16.90	16.60	16.40	16.40
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	18.210 ~ 20.285	17.926	18.92	18.89	18.75	18.18	18.11
香港ドル	(HKD)	14.946 ~ 16.233	15.191	15.85	15.72	15.46	14.95	14.82
インドルピー	(INR)	1.747 ~ 1.971	1.756	1.84	1.81	1.90	1.86	1.89
インドネシアルピア	(100IDR)	0.806 ~ 0.969	0.850	0.848	0.871	0.876	0.859	0.865
韓国ウォン	(100KRW)	9.688 ~ 11.266	9.782	10.25	10.34	10.34	10.00	10.09
マレーシアリンギ	(MYR)	26.646 ~ 34.334	26.820	27.95	29.40	29.85	29.59	28.89
フィリピンペソ	(PHP)	2.521 ~ 2.800	2.467	2.59	2.62	2.63	2.58	2.58
シンガポールドル	(SGD)	82.40 ~ 92.89	82.29	86.01	87.77	88.24	87.22	85.82
台湾ドル	(TWD)	3.551 ~ 4.078	3.518	3.67	3.65	3.63	3.54	3.54
タイバーツ	(THB)	3.250 ~ 3.737	3.253	3.32	3.34	3.33	3.27	3.29
ベトナムドン	(100VND)	0.5178 ~ 0.5768	0.5269	0.54	0.52	0.52	0.50	0.49
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.613 ~ 2.652	1.550	1.76	1.79	1.85	1.93	1.92
南アフリカランド	(ZAR)	7.548 ~ 10.453	7.168	7.94	8.13	7.74	7.25	7.19
トルコリラ	(TRY)	38.853 ~ 52.258	39.071	41.00	38.13	35.82	33.14	32.86
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	28.163 ~ 46.148	29.548	29.29	28.50	28.50	27.62	27.38
メキシコペソ	(MXN)	6.764 ~ 8.199	6.619	7.24	7.22	7.23	7.07	7.01

(注)1. 実績の欄は12月31日まで。SPOTは1月15日の8時20分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。
(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。